

## 資料4 小規模校における課題と対応について

### I 3学級規模の専門高校等の検証結果報告（平成23年5月とりまとめ）

#### 1 内容

平成22年度に実施した、3学級規模の専門高校等の検証結果を報告する。

#### 2 報告事項

(1) 期間 平成22年度

(2) 対象校

- ・ 唐津南高校、高志館高校、杵島商業高校、伊万里農林高校（全学年3学級）
- ・ 鹿島実業高校（1・2年3学級、3年4学級）
- ・ 伊万里商業高校（1年3学級、2・3年4学級）
- ・ 佐賀農業高校、唐津青翔高校、嬉野高校（H23年度入学生から3学級）

(3) 方法

① 検証依頼

- ・ H22年度第1回ワーキンググループ会議(H22年5月6日(木))で依頼（唐津青翔高校及び嬉野高校を除く7校）
- ・ 学校訪問による依頼（唐津青翔高校及び嬉野高校）※募集定員確定後

② 学校運営の状況（校務分掌、学習指導、部活動、学校行事）について報告

- ・ H22年11月末提出

⇒ H22年度第2回ワーキンググループ会議開催

(H22年12月21日(火))

③ 教育活動の成果（進路状況、志願者数、資格取得状況、部活動、教育活動の評価）について報告

- ・ H23年3月末提出

④ ②、③を踏まえ、検討結果まとめ

- ・ H23年4月12日メールにより各校送付、確認依頼

⑤ 検討結果まとめ及びH23年度の取組についての協議

⇒ H23年度第1回ワーキンググループ会議（H23年5月12日(木)）

(4) 検討結果のまとめ

- 小規模校では、生徒数が少ないため、生徒一人ひとりに目が届き、進路指導等について、きめ細かに指導することが可能になるなどメリットもあるが、生徒数・教職員数ともに少ないため、校務運営や授業展開、部活動、学校行事などの教育活動において、次のような課題がある。

- ・ 校務分掌や委員会の兼務が多い。
- ・ 受験指導や就職指導において、職員の配置が少ない教科（専門高校の場合はほとんどの普通教科）の習熟度別指導などが十分できない。

- ・ 部活動では、部員及び部活動予算の確保並びに顧問の配置などが難しくなっている。
  - ・ 小規模校であっても学校行事の数は大規模校と差がないため、運営に係る負担が大きくなる。
- しかしながら、平成22年度も、平成21年度に続き、各学校がその特色を生かすため、様々に工夫して取り組んでいることが報告され、他校にも参考になる事例が示された。特に学級減が進行中の学校においては、年々減少する生徒数、職員数に対して様々な対応が検討されている。
  - また、このWG会議で他校の状況を知ることで、自校の課題を再認識し、組織の見直し等の検討を始めた学校もある。各校それぞれが危機感を持って、学校運営に当たっていることが推察される。
  - 進学や就職の実績についても、平成21年度よりも実績を伸ばしている高校が多く、専門学科と関連した職業に就く生徒の割合が増えている学校もある。
  - 各校の総合評価や学校評議員会による評価では、専門性を生かした取組や進路指導を中心に据えた教育などの学校の努力を評価され、生徒、保護者の満足度は概ね高い状況である。
  - 以上のように、今回の検証においても、小規模校による課題のため、学校を単独で維持することが困難であるような状況は見られなかった。
  - 今後もこの検証を継続することで、各校の課題を整理し、その対応などの情報を共有、活用することで、学校の更なる活性化に向けた取組を推進する契機とすることができる。

## II 3 学級規模の専門高校等における学校運営の課題とその対応 (ワーキンググループ会議資料)

### (1) 校務運営

#### 課題

- ・ 校務分掌や委員会の兼務が多い。
- ・ 職員の空き時間が取れないため、時間割内に校務分掌や委員会の会議ができないため、放課後の個別指導や部活動指導等に影響を与えることがある。
- ・ 職員数に対して選択科目が多いため、時間割編成上制約が大きい。

#### 【対応例】

- ・ 校務分掌や委員会の統合を図り、数を減らして兼務を減らす。また、分掌間の連携を密にすることで、兼務をなくした場合の分掌の人員減に対応する。
- ・ 各分掌、学科、学年主任及び担任は兼務数を減らし、仕事量の偏りを解消するよう努めている。
- ・ 効率的な会議運営のために、会議の時間短縮の工夫として、事前に会議資料を配付している。また、主任会、学科及び学年の会議は状況が許す限り、時間内に開催し、協議、報告内容が全職員に周知されるよう図っている。
- ・ 農業高校は実習助手が多いことから、副担任2人制とし、きめ細かなクラス運営に努めている。

<平成22年度3学級規模の専門高校等検証データより>

募集 学級数	学科	※1 職員数		校務分掌 数	1分掌あ たりの 平均職員 配置数	※2 職員一人 あたりの 平均分掌 数	委員会数	1委員会 あたりの 平均職員 配置数	※3 職員一人 あたりの 平均委員 会数
			うち教諭						
3学級	農業	42	22	7	8.3	1.61	15	9.5	3.75
4学級	農業	52	26	10	8.2	1.78	17	9.5	3.36
3学級	商業	33	22	4	7.8	1.11	18	11.5	6.90
4学級	商業	45	33	6	5.7	0.90	20	8.6	4.30
7学級	商業	69	54	6	9.3	0.87	13	10	1.97

※1 職員数は、校長、教頭、事務長、教諭、養護教諭、常勤講師、非常勤講師、実習助手の計である。  
 ※2 校務分掌に校長、教頭、事務長、非常勤講師は割り振られないため、平均の計算から除いている。  
 ※3 委員会に校長及び非常勤講師は割り振られないため、平均の計算から除いている。

## (2) 学習指導

### 課題

- ・ 職員が1名しか配置されない教科があり、生徒の学力や志望に合わせた指導が難しい。また、職員の教科指導力向上を目的とした研修も困難な状況がある。
- ・ 総合学科については、少人数指導が多いことから、選択科目数の精選が必要となる。

### 【対応例】

- ・ 校内でコースを設定することにより、生徒の多様な進路志望に対応できるよう効率的な教育課程の編成を行っている。
- ・ 進学、就職などに対応できる基礎学力定着のため、具体的に目標点を設定して、小テストや課題テストを実施するなど、家庭学習を含めた学習習慣の定着を図っている。
- ・ 生徒の能力や実態に応じて、可能な範囲で、職員同士が協力しながら少人数指導や個別指導を行っている。
- ・ 生徒による授業評価や公開授業による外部からの評価によって、職員の指導力向上を図っている学校もある。
- ・ 授業では対応できない、資格取得や小論文の指導のため、授業時間外に指導をしている。

<平成21年度3学級規模の専門高校等の検証データより>

募集 学級数	学科	普通教科			専門教科		
		授業時間	職員数 (教諭、講師)	平均持ち時間 数	授業時間	職員数 (教諭、講師)	平均持ち時間 数
3学級	農業	209	18	11.6	221	17	13.0
4学級	農業	274	19	14.4	236	18	13.1
3学級	商業	228	16	14.3	203	11	18.5
4学級	商業	255	18	14.2	228	15	15.2

### (3) 部活動

#### 課題

- ・ 部活動によって学校の活性化を図りたい気持ちはあるものの、部活動予算、部員数、顧問配置などの課題により、部活動を整理せざるを得ない状況も生じている。
- ・ 生徒数が少ないため、団体競技において、高校総体後のチーム編成が困難になることがある。
- ・ 個人競技でも、顧問は少ない人数でモチベーションを維持するために苦心している。
- ・ 顧問の適材適所が難しく、生徒の要望に応えられないことがある。

#### 【対応例】

- ・ 部活動加入率を向上させる。
- ・ 学校内で強化する部を選び、活性化を図る。
- ・ 全職員による部活動指導を行う。
- ・ 職員が複数の部活動顧問を兼務する（例えば運動部と文化部）ことによって、顧問を複数配置（技術指導＋サポート）する。

<平成 22 年度 3 学級規模の専門高校等の検証データより>

		農業科 (全学年3学級)		農業科 (全学年4学級)		商業科 (全学年3学級)		商業科 (2, 3年4学級)	
		H21年度	H21年度	H21年度	H21年度	H21年度	H21年度		
部活動数	運動部	11	11	15	13	9	9	16	16
	(総体参加部数)	11	10	14	12	8	7	16	16
	(新人大会)	10	10	13	11	8	7	15	16
	文化部	8	8	7	7	9	9	9	9
	計(運動部+文化部)	19	19	22	20	18	18	25	25
顧問数	運動部	31	27	33	29	22	23	22	24
	文化部	15	16	14	14	14	19	13	15
	(兼任数は内数)	7	4	0	0	5	6	2	4
	計	39	39	47	43	31	36	33	35

#### (4) 学校行事

##### 課題

- ・ 生徒数、職員数ともに少ないため、学校行事の運営には工夫が必要である。
- ・ 授業時間の確保や行事にかかる準備時間の削減などのため行事を整理する必要がある。

##### 【対応例】

- ・ 複数の行事を組み合わせたり、時間を短縮したりして、対応している。
- ・ 行事の内容に生徒の意見を反映させたり、運営に保護者の協力を得たりして、企画を工夫し、盛り上がるよう工夫をしている。
- ・ すべての生徒を行事へ関わらせることによって、終わった時の満足度を高めている。

<平成 22 年度 3 学級規模の専門高校等の検証データより>

##### ○ 体育祭での生徒一人あたりの出場回数

			農業 (全学年 3学級)	農業 (全学年4 学級)	商業 (全学年 3学級)	商業 (2,3年 4学級)
体育祭	団体競技	種目数	10	11	14	3
		出場延人数	1213	1695	2436	1305
		一人あたりの平均出場数	3.57	3.6	6.96	3
	個人競技	種目数	6	4	2	12
		出場延人数	129	144	130	1247
		一人あたりの平均出場数	0.38	0.3	0.46	2.87
出場数合計			3.95	3.9	7.42	5.87